



教育学部 / 教育学研究科

教育は、次世代に未来を託す営み!

今日の学校教育の現場には、急激な社会の変化の中で、教科に関する新しい学力をどのようにつけるか、子どもたち一人一人の自己実現をどのように支援できるかなど、人間形成に関するきわめて重要で魅力的な課題があります。また、急速な少子・高齢化、情報化社会の進展、切実さを増す環境問題、多文化社会における共生の在り方などの問題は、生涯にわたる教育の必要性和新たな教育的課題を生み出しています。



学校教育教員養成課程

- 幼児教育コース
- 小学校教育コース
- 中学校教育コース

学校教育教員養成課程では、子どもの成長・発達過程を総合的にとらえ、彼らの「生きる力」を育成し、生き生きとした学校教育を実現するため、実践的な指導力を有する教員を養成します。

人間発達環境課程

- 発達臨床コース
- 人間環境教育コース
- 国際理解教育コース

人間発達環境課程では、人間の生涯にわたる発達と人間を取り巻く環境に関する様々な問題を総合的に探求し、国際化、情報化、少子・高齢化の進む生涯学習社会を支えることのできる人材を養成します。

教育学部が関連する諸活動

学生・教職員が、学内外と関連した様々な行事を行い、教育学部の教育研究活動を特徴づけています。その幾つかを紹介します。

■ オープンキャンパス (写真1)

毎年8月に行われる、高校生たちに教育学部の魅力を伝えるイベントです。学生たちが、中心的な役割を果たしています。

■ 未来からの留学生 (写真2)

香川県の子どもたちに、大学の良さを知ってもらう「一日体験入学」のイベントです。大学生たちが様々な活動を用意します。2014年で13回目となりました。

■ かがわけん科学体験フェスティバル

教育学部の学生・教職員も実行委員として、中心的な役割を果たしています。こちらは2014年で22回をこぞえます。

■ わくわくコンサート (写真3)

演奏会に足を運ぶ機会が少ない子どもたちや保護者の方々からの「音楽ホールでコンサートを聴いてみたい」という声をきっかけにスタートし、2014年度で8回目を迎えました。

■ 香川CST事業

理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー=CST)養成プログラムの実施とCST活動の推進を香川県教育委員会と共同で2011年度から行っています。



大学院 教育学研究科 (修士課程)

- 学校教育専攻
- 特別支援教育専攻
- 教科教育専攻
- 学校臨床心理専攻

教育学研究科は、学部段階における専門教育を基礎として、教育並びに教科の基礎となる専門諸学芸に関する精深な専門的知識・技能を修得させ、さらに、学校現場との結びつきを強化することによって、高度な専門性と実践的指導力を有する教員を養成します。また、教育の諸分野において指導的役割を担い、地域文化の向上に寄与できる人材を養成します。



法学部 / 法学研究科

充実の少人数授業で共に学び深く知るジュリストに

各学生は入学後に希望する進路に沿ったコースを選択します。法学部では、たとえば実務家教員による教育や、フィールドワークを重視した教育など、時代の要請に即し、総合大学としての強みを生かした学際的研究教育を行い、さらに、少人数制の授業により、きめ細やかな指導を行っています。また、夜間の社会人向けのコースでは、社会人としてのより幅広い判断力や政策遂行能力などを涵養します。大学院法学研究科とともに、法律学と政策科学の教育を通じて、公共的市民および高度専門職業人の養成を目指しています。



法律基礎コース

高度専門職業人としての素養のうちリーガル・マインドを身につけ、紛争解決のための法学的スキルの修得を目指します。法学は、公平・公正にルールを適用して紛争を解決する学問です。本コースでは、そうした学問を社会において応用するための基礎を学びます。法科大学院への進学、裁判所職員、民間企業の法務担当、司法書士、税理士などを目指す方を対象としています。

社会設計コース

高度専門職業人としての素養のうち政策マインドを身につけ、社会に潜む問題の実践的解決能力の修得を目指します。福祉、環境、情報、グローバル化などの現代的事象とそれらの歴史的背景、さらに政策決定過程におよぶ幅広い視点を学びます。各種公務員、NPOやNGO職員などとして活躍できる人材の養成を主眼としています。法科大学院への進学も可能です。

総合法政コース(夜間主コース)

働きながら学ぶ学生を対象として、社会人としてのより幅広い判断力や、企画力、政策遂行能力などの涵養を目的としています。産業構造や雇用形態等の大きな変化に対応すべく、より深い学識を身につけたいと希望する社会人の期待に応えようとするものです。



大学院 法学研究科 (修士課程)

- 法律学専攻

法律学と政策科学のより高度な教育を行うことで、これらの分野の学識をいっそう深化させることを目標としています。税理士、司法書士、公認会計士などに求められる高い学識・能力の修得、また公務員などに必要な政策能力の修得を目指します。さらに、法学修士の学位を取得した後、他大学の大学院に進学して博士の学位を目指すことも可能です。



経済学部 / 経済学研究科

中四国エリア屈指の歴史と伝統を誇る教育研究拠点

経済学部は90年の歴史と伝統を有し、四国で唯一の国立の経済学部として、国内外で活躍できる教養ある経済人の育成を通して、広く社会に貢献することを理念としています。「経済学科」、「経営システム学科」、「地域社会システム学科」の3学科からなり、時代の要請に応えた教育・研究を行っています。また、夜間主コースでは、各学科にまたがる総合経済コースを設置し、経済に関する知識を総合的に学ぶことができます。



経済学科

- 経済理論履習モデル
- 政策・制度履習モデル
- 統計履習モデル

経済学部創設以来の伝統を持つ経済学科は、国際化・情報化・市場化の進展に伴い複雑多様化する現代経済を理論的・実証的・数量的に解明し、直面する諸課題に対して、国際的視野と科学的視点から、実行可能な政策を提言できる人材の育成を目標としています。



経営システム学科

- 企業・社会履習モデル
- 組織・戦略履習モデル
- 会計履習モデル

経営のグローバル化、技術革新、IT化の進展、規制緩和、地球環境との共生など、企業を取り巻く環境は21世紀に入り、ますます急速に変化しています。こうした環境の中で、企業が競争に勝ち抜き、その存続・成長の基礎を確立するには、差別化を積極的に創造する必要があり、それを生み出す条件として、専門化された知識やスキルの役割がますます重要になっています。経営システム学科では、こうした企業経営に求められる知的能力を身につけた人材の育成を目標としています。



地域社会システム学科

- 国際社会文化履習モデル
- ツーリズム履習モデル

21世紀に入り、経済をはじめとした様々な分野でグローバル化が進展し、我々がビジネスや観光で世界の様々な地域を訪れ、また世界から人々を受け入れる機会も格段に増えています。相互に相手の地域を訪問し交渉する時に、相手の地域についての知識を持たなければ、相互の理解は生まれません。地域社会システム学科では、世界及び国内の多様な文化・社会に対する深い理解力と分析能力を備え、広く国内外のビジネスシーンで活躍できる人材の育成を目標としています。



大学院 経済学研究科(修士課程)

■ 経済学専攻

経済学研究科は、経済学部をベースとした大学院(修士課程)です。「経済活動を理解するには学部の授業だけでは不十分だ」、「もっと経済・経営の高度かつ専門的な勉強をしたい」と考える学生に適しています。また、社会人の方が職業上の新たな知識・技術を修得するための、あるいは日常生活において教養や人間性を高めるための高度で専門的なリカレント教育も行っています。社会人の方もキャリア・アップをかねて、ぜひ、チャレンジして下さい。



医学部 / 医学系研究科

地域医療とグローバル医療を学ぶ

1978年に香川医科大学として開学し、1996年には看護学科が開設された後、2003年10月に香川大学と統合し、開学以来30年以上が経過しました。

開学以来、地域医療への貢献と世界に通用する医学・看護学研究者、医療人を育成することに重点を置き、地域医療機関および海外の大学での臨床実習を積極的に行っています。将来の医療の発展に貢献したいと考えている方に最適な学習環境を提供します。



医学科

医学は、生命の謎を解き明かし、その結果知り得た生命現象の原理に基づき、病気が起こるメカニズムの解明や、新たな診断法や治療法の開発につなげ、人々の健康維持や幸福な生活に寄与するものです。人間性尊重の精神・倫理観を育み、全人的・包括的医療が行える医療人を育成し、医師国家試験の全員合格を目指します。併せて医学研究者の養成を行います。また、遠隔診断など最新情報技術を生かして地域医療にも目を向けています。



看護学科

看護学は、人間の尊厳を尊重し、倫理的価値観をもって健康に関する要望を受け止め、病気の予防と療養生活への支援を行い、また治療への援助と医療チームの調和を図って、生きる力を支える学術分野です。看護学科では、シミュレーション学習によるアセスメント、安全・安楽、対話などの学習を行い、問題解決能力と洞察力を高める教育を行っています。また、遠隔診断など最新情報技術を生かして地域医療にも目を向けています。



大学院 医学系研究科(博士・修士課程)

- 修士課程 ■ 看護学専攻
- 博士課程 ■ 機能構築医学専攻
 ■ 分子情報制御医学専攻
 ■ 社会環境病態医学専攻
 (がんプロフェッショナル養成コース)

修士課程は、3分野8専門領域で構成され、看護を提供する場を改革する研究や専門領域の教育に必要な知識・技術を習得し、高度看護実践者としてのケア実践能力、管理能力をもつ研究者・教育者を養成します。

博士課程は3専攻16部門で構成され、前半は自立して研究活動を推進するために必要な学識と技術を習得し、後半は指導教員のもとに専門の研究課題について自発的に独創的な研究活動を行います。また、がんプロフェッショナル養成コースは中四国10大学が協議し、高度な知識・技術を有するがん専門医療人を養成します。



工学部／工学研究科

次の時代を創る技術・知識をここから発信

工学はこれまで人類に多大な繁栄をもたらしてきましたが、他方で環境汚染、資源枯渇などの問題を引き起こしてきました。このような問題に対処していくためには、従来の効率優先の単眼的視点から離れて、人間、社会、人工物、自然という工学の対象を多角的視点から正しく理解し、新しい科学技術を自ら創造していく工学技術者の養成と新たな工学研究の構築が必要不可欠です。



安全システム建設工学科

- 自然環境マネジメント分野
- 建築・住環境デザイン分野

本学科は、「自然環境マネジメント分野」、「建築・住環境デザイン分野」の2つの分野で構成されています。建設工学に関する基礎的技術に加え、自然と共生する安全で豊かな住環境を構成・構築し、安全安心、生活文化、空間快適性などの質的価値の高い住空間および都市・田園空間を創出、再生できる技術者の育成を目指した教育を行います。



電子・情報工学科

- 情報環境コース
- 電子情報通信コース

本学科では、情報通信システムに関する技術を学習します。学科の伝統である信頼性工学や感性工学の知識を生かし、使いやすい情報機器やシステム、大規模情報ネットワークシステムにおける信頼性やセキュリティについて開発する人材を育成します。学習の重点によって、2年次秋に情報環境コースと電子情報通信コースに分かれます。



知能機械システム工学科

- 人間支援ロボティクス分野
- バイオメディカルエンジニアリング分野

本学科では、まず機械工学の基礎として解析力、力学、制御、設計・製図を身に付け、その上で電気電子、情報といった機械を知能化する分野を学びます。研究室は微細機械から人間支援まで広範囲な分野があり、卒業研究や大学院の研究でそれらのひとつに取り組み、高度な技術者として成長できます。



材料創造工学科

- 環境材料化学分野
- 機械材料科学分野
- 光・電子材料科学分野

情報通信機器の発展、輸送機械の進化、医療の根幹を成すナノテクノロジーなど、新機能材料の創造は常に先端技術を牽引しています。本学科では、従来、材料系、電気系、化学系、生物系、物理系などで分けて学んでいた分野を有機的に統合し「環境材料化学」、「機械材料科学」、「光・電子材料科学」の三分野にまとめ、視野の広い新しい視点での教育実践を行います。



大学院 工学研究科(博士前期課程・博士後期課程)

- 安全システム建設工学専攻
- 信頼性情報システム工学専攻
- 知能機械システム工学専攻
- 材料創造工学専攻

現代社会の進歩はめざましいものがあり、その発展を支える1つの大きな柱が科学・技術であり工学です。絶え間なく進展する社会の複雑化、情報化、グローバル化のために、最近の工学に課せられる課題は特定分野の専門的知見を駆使するだけでは解決することがむずかしくなっています。そのため、専門知識とともに広い視野と学際的視点を基に行動できる技術者を養成することが、大学院教育に求められています。



農学部／農学研究科

100年の伝統を踏まえ、食と生命の未来を拓く

農学部は「応用生物科学科」1学科制で、生物生産の現場や生物科学産業などで活躍できる有為な人材を育成します。学部学生は生物資源の生産と利用に関する共通の基礎知識と技能を身につけるとともに、2年後期から「応用生命科学」、「生物生産科学」、「環境科学」、「生物資源機能化学」、「食品科学」の5コースに分類し、各専門分野を体系的に学び、3年後期から卒業論文に取り組んでいます。



応用生命科学コース

近年の生命科学やバイオテクノロジーのめざましい発展により、生命現象や生物が作る物質の特性や機能を分子レベルで解明して利用することが可能になってきました。応用生命科学コースでは、微生物から高等動物植物までの様々な生命活動を分子・遺伝子レベルで明らかにする生命科学の基礎から、その成果を有用生物の開発や生物資源の有効利用へと役立てるための応用技術まで幅広く学ぶことができます。

生物生産科学コース

21世紀の豊かな社会の発展に求められる安全で安定的な食料供給と、生活に潤いをもたらす園芸資源の生産開発をめざして、遺伝子資源の評価と品種改良、生産技術・環境や生産物の流通・利用システムなどを、フィールドからパイオまで体系的かつ実践的に学びます。基礎から応用までの理論を体系的に学習し、連携した実験やフィールド(農場)実習を通して自ら検証できるユニークな教育体制を有しています。

環境科学コース

生物と環境の相互作用や環境中の物質循環について学びます。特に里山と里山を主な対象として、フィールド及び実験室・実験農場で化学的・生物的手法をはじめとする様々な分野の手法と理論を活用し調査解析に取り組みます。そして、環境や生物の利用・管理および保全に実践的に取り組む力を身につけます。

生物資源機能化学コース

生体の様々な機能を物質レベルで理解し、多様な生物資源の効率的な利用法の開発に必要な基礎的知識の修得を目標とします。特に、有用な機能を持つ生物由来の化学物質の探索法、それらの生成・作用メカニズムや分子構造を解明するための化学的手法、さらに再生産可能資源としてのバイオマスの高度利用法について重点的に学びます。

食品科学コース

食品の持つ人間に対する種々の生体調節機能などを化学的に理解し、①食品の機能性 ②安全性 ③嗜好性・加工特性について学びます。講義と実験・実習(学外の工場又は研究所見学なども含む。)を組み合わせ、基礎から応用、そして実践的内容のカリキュラムで、安全で、機能性が高く、様々な嗜好性に対応できる食品を開発できる人材の育成を行っています。



(上記写真は、小豆産での田舎生活活動に留学生とともに参加する学生です。)

大学院 農学研究科(修士課程)・愛城大学大学院連合農学研究科(博士課程)

- 生物資源生産学専攻
- 生物資源利用学専攻
- 希少糖科学専攻

農学研究科(修士課程)は、「生物資源生産学専攻」、「生物資源利用学専攻」と医学部教員も含めた産学官連携方式による新規の「希少糖科学専攻」の3専攻からなります。本研究科では、生物科学を基礎に、生物資源の生産と利用に関する高度な専門的知識と能力をそなえた高度専門職業人の養成を行っています。また、愛城大学大学院連合農学研究科(博士課程)の構成大学として、生物資源の生産と利用に関する諸科学について高度の専門的能力をもった研究者の養成をしています。

香川大学大学院 地域マネジメント研究科



本研究科は、地域活性化に関する知識を総合的に学び、「ビジネス・リーダー」、「パブリック・プロフェッショナル」、「地域プロデューサー」を養成する地域に根ざした経営系専門職大学院（ビジネススクール・MBA）です。学生の多くは、企業や自治体などで仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。多忙な社会人学生に配慮し、平日夜間のほか土曜日や夏季に授業を行っています。少人数教育に

よって、学生の問題意識に応じたきめ細やかな指導を行っています。

研究科は、経営・会計領域と地域公共領域から構成されています。専任教員は、研究実績に富む研究者教員と実務経験に富む実務家教員が在籍しています。さらに、外部講師として、国内外の大学教員に限らず、企業経営者、行政機関の長を迎え、地域とタイアップしたカリキュラムの充実に努めています。

香川大学大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科

本研究科は、豊かな人間性、幅広い教養と専門的知識、柔軟な思考力などを基礎に、基本的人権の擁護と社会正義の実現を目指し、十分な職業倫理を身につけ、親身になって地域住民の生活を支える法曹を養成することを理念・目標としています。四国に唯一の法科大学院であり、また、香川大学・愛媛大学による連合形態の法科大学院であるという特色を最大限に活かし、四国弁護士



会連合会をはじめとする各種団体からの強力な支援を受けながら、四国地域に根差した法曹養成機関として、多数の実務家教員を含む充実した教授陣のもと、徹底した少人数教育を実践しています。